

研修での体験と感謝の気持ち

遠藤 駿



私が通っている合気道道場は仙台にあり、小林道場由来の道場であることは存じていましたが、今まで小林道場本部の合気道に触れる機会は全くと言っていいほどありませんでした。今回は小林先生の紹介でアメリカはデンバーの日本館に合気道研修に行くことが決まり、その前研修として小林道場で住み込み研修をする運びとなりました。金曜の朝食作りや道場内外の掃除など、未体験の事ばかりで、御迷惑をおかけいたしました。大変勉強になりました。自身がいかに若輩かを改めて知る良い機会だったと思います。

しかし今回の一番の収穫は先に内弟子として研修をしていたポーランドのヴォイテックと一緒に生活できたことだったと思います。彼はとてもユニークな性格で、先輩としてお世話になっただけではなく、共に充実した楽しい生活を送ることができました。滅裂な英語を話す私の意図をなんとか読んでいただき、会話が成り立っていたのも彼のおかげだと思います。

小林先生をはじめ指導員の先生方や道場生の方と幾許かの稽古を行い、感じたことがあります。それは当然のことではありますが、どの方も小林道場生としての強い誇りと結束を持っているということです。特に指導員の先生方の会話からは小林先生を中心に明るい中にも荘厳な印象を受けました。それは小林先生の元で厳しい稽古を受けたからこそその一体感のようなものなのではないでしょうか、そのような堅固な繋がりがあることが大変羨ましく思いました。

日曜には審査を見学させて頂きました。貴重な体験ができて良かったと思いますが、審査後の宴会に出席できなくて非常に残念でなりません。土曜の夜には小柳先生に夕飯を腹十二分にご馳走していただき感謝しているとともに、小林道場ならではの慣習のようなものも少なからず体験できましたし、



色々貴重なお話をお聞きすることができました。また府中道場において、堂々と英語で自己紹介ができなかったのもアメリカに行く前までの英語学習の良い触媒になるでしょう。

実に濃密な研修だったと感じます。この素晴らしい経験をアメリカでの研修のみならず、これから人生のあらゆる場面で活かしたいとおもいます。私と稽古につきあってくださった道場生の皆様、指導していただいた指導員の先生方、そしてなにより私にこのような機会を与えてくださいました小林先生に心から感謝を申し上げます。